# Ruby 初級者向けレッスン第4回

#### かずひこ@株式会社 ネットワーク応用通信研究所

2005年11月26日

# Ruby で学ぼう例外処理

- 例外処理とは?
- いろいろな例外
- 例外処理の実装
- 例外を発生させる
- 独自の例外クラス

#### 例外処理とは?

- 実行時のエラーを処理するための方法
- エラーが起きた時にどうするかを記述できる
- エラーの処理を、検出したい処理ごとにその近くに記述する必要がなく、正常時の処理と例 外の処理を分離できる
- だからプログラムが書きやすくなる
- だからプログラムが読みやすくなる

# いろいろな例外(1)

整数を 0 で割算

• sample1.rb の 1 行めで例外オブジェクトが発生

- 例外のクラスは ZeroDivisionError
- 例外のメッセージは「divided by 0」
- 例外までの足跡 (バックトレース) は sample1.rb の 1 行め

# いろいろな例外(2)

存在しないファイルを読む

# いろいろな例外(3)

● メソッド名の typo

```
# sample3.rb
p Array.now

$ ruby sample3.rb
sample3.rb:1: undefined method 'now' for Array:Class (NoMethodError)
```

### いろいろな例外(4)

文法エラー

```
# sample4.rb
p 1 /
$ ruby sample4.rb
sample4.rb:1: syntax error
```

# いろいろな例外(5)

• メソッド呼び出しの無限ループ

# 定義済み例外クラス

• あらかじめ以下の例外クラスが定義されている

```
Exception
    NoMemoryError
    ScriptError
        LoadError
        {\tt NotImplementedError}
        SyntaxError
    SignalException
        Interrupt
    StandardError
        ArgumentError
        IndexError
        IOError
            EOFError
        LocalJumpError
        NameError
            NoMethodError
        RangeError
            FloatDomainError
        RegexpError
        RuntimeError
        SecurityError
        SystemCallError
        {\tt SystemStackError}
        {\tt ThreadError}
        TypeError
        ZeroDivisionError
```

SystemExit

# 例外処理の実装

文法

```
begin
式..
[rescue [例外クラス,..] [=> 例外変数名]
式..]..
[else
式..]
[ensure
式..]
end
```

### rescue 節

単純な rescue の例

```
# sample1a.rb(整数を0で割算)
begin
p 1/0
rescue
puts "Class: #{$!.class}"
puts "Message: #{$!.message}"
puts "Backtrace:"
puts $!.backtrace.join("\n")
end

$ ruby sample1a.rb
Class: ZeroDivisionError
Message: divided by 0
Backtrace:
sample1a.rb:3:in '/'
sample1a.rb:3:
```

# rescue する例外の指定

- rescue 節に例外クラスを指定すると(複数指定可) 指定した例外クラスとそのサブクラス の例外だけを補足する
- 無指定時は StandardError を指定したのと同じ

● ZeroDivisionError の場合

```
rescue #=> 補足する
rescue StandardError #=> 補足する
rescue ZeroDivisionError #=> 補足する
rescue TypeError #=> 補足しない
```

- LoadError やSyntaxError は、StandardError のサブクラスではないので、ただの rescue では補足できない
- 何でも補足してしまうと、かえって問題に気づきにくい

# 例外オブジェクトを変数に代入

• 'rescue [例外クラス,..] ⇒ 変数名' とすると、指定された変数に\$!と同様に発生した例 外が代入される

```
# sample1b.rb(整数を0で割算)
begin
p 1/0
rescue => err
puts "Class: #{err.class}"
puts "Message: #{err.message}"
puts "Backtrace:"
puts err.backtrace.join("\n")
end
```

### 例外は呼び出し元にさかのぼる

• メソッドの呼び出し元にさかのぼって例外が返る

```
# sample1c.rb(整数を0で割算)
def method1
  return 1/0
end

def method2
  method1
end

begin
  method2
rescue
```

```
puts "Class : #{$!.class}"
puts "Message : #{$!.message}"
puts "Backtrace :"
puts $!.backtrace.join("\n")
end

$ ruby sample1c.rb
Class : ZeroDivisionError
Message : divided by 0
Backtrace :
sample1c.rb:3:in '/'
sample1c.rb:3:in 'method1'
sample1c.rb:7:in 'method2'
sample1c.rb:11
```

#### else 節

• else 節は、例外が発生しなかった時に実行される

```
# sample1d.rb(整数を0以外で割算)
begin
p 1 / 1
rescue ZeroDivisionError
puts 'ZeroDivisionError raised'
else
puts 'nothing raised'
end
```

#### ensure 節

• ensure 節は、例外が発生してもしなくても実行される

```
# sample1e.rb(整数を0で割算するかも)
begin
p 1 / rand(2)
rescue ZeroDivisionError
puts 'ZeroDivisionError raised'
else
puts 'nothing raised'
ensure
puts 'always run ensure section'
end
```

# rescue の中の retry

• rescue 節の中で retry を使うと、begin の最初からもう一度実行する

```
# sample1f.rb(整数を0で割算)
begin
p 1 / rand(2)
rescue ZeroDivisionError
puts "try again"
retry
end
```

● 何度やってもダメな時に使うと無限ループに

### rescue 修飾子

- '式1 rescue 式2' のようにも書ける (rescue 修飾子)
- 捕捉する例外クラスは指定できない(つまり StandardError サブクラスだけ)

```
a = (1 / 0 rescue 2)
p a #=> 2
```

#### 例外を発生させる

- 問題が起きた時に自動的に例外は発生するが、組み込み関数のraiseを用いて明示的に例外を発生させることもできる
- 文法は以下のとおり
  - raise
  - raise(例外クラス)
  - raise(メッセージ)
  - raise(例外クラス、メッセージ [、バックトレース])
  - (第一引数の「例外クラス」は「例外オブジェクト」も可)
- 以下のraise の行を 'raise(TypeError)' や 'raise("message")' や 'raise(TypeError, "message")'
   のように変えて実行してみよう

```
# sample6.rb(例外を発生させる)
begin
  raise
rescue
  puts "Class: #{$!.class}"
```

```
puts "Message : #{$!.message}"
puts "Backtrace :"
puts $!.backtrace.join("\n")
end
```

- 引数がない raise は、同じスレッドの同じブロック内で最後に rescue された例外オブジェクト(\$!)を再発生させる
- そのような例外が存在しなければ RuntimeError 例外(メッセージは"")を発生させる

```
# sample6a.rb(整数を0で割算)
begin
p 1/0
rescue
puts "Class: #{$!.class}"
puts "Message: #{$!.message}"
puts "Backtrace:"
puts $!.backtrace.join("\n")
raise
end
```

# 余談:組み込み関数

- Kernel モジュールで定義されているメソッドは、どこからでもレシーバなしに呼び出せるので「組み込み関数」とか「関数風メソッド」とか呼ばれる
- raise の他に p, print, puts, require, system など

### 独自の例外クラス

- 定義済みの例外クラスの他に、独自の例外クラスを作ることができる
- Exception クラスや StandardError クラスのサブクラスとして定義する

```
# sample7.rb(独自の例外クラス)
class MyException < StandardError
end

begin
  raise(MyException, 'a message of my exception')
rescue
  puts "Class: #{$!.class}"
  puts "Message: #{$!.message}"
  puts "Backtrace:"
  puts $!.backtrace.join("\n")
end
```

# 演習問題

- 以下のメソッド num\_check を定義しましょう
  - 引数を一つだけとる
  - 引数が整数でなければ TypeError (メッセージは 'not integer') を発生
  - 引数が負なら NegativeError (メッセージは 'negative value') を発生
  - そうでなければ引数の値を返す
- num が整数かは num.kind\_of?(Integer) で判定できる
- 書ける人はテスト・ファーストで書こう

### まとめ

- プログラムにエラー処理はつきもの
- 例外を使うと上品なプログラムになる
- rescue の対象は適宜限定しよう

# 参考文献

『たのしい Ruby』

ISBN:4797314087

『プログラミング Ruby』

ISBN:4894714531

# 今後の情報源

#### 公式 Web サイト

http://www.ruby-lang.org/

#### リファレンスマニュアル

http://www.ruby-lang.org/ja/man/

#### 日本 Ruby の会

http://jp.rubyist.net/

#### Rubyist Magazine

http://jp.rubyist.net/magazine/

#### ふぇみにん日記

http://kazuhiko.tdiary.net/